

# 千葉市坊屋敷遺跡II

2004

社会福祉法人 葉寿会  
財団法人 千葉市教育振興財団

## 例　　言

1. 本書は、千葉市若葉区大宮町1.625に所在する坊屋敷遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理・報告書作成に至る業務は、社会福祉法人葉寿会の委託を受け、千葉市教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが実施した。
3. 発掘調査の期間と面積

期間 平成15年6月2日～平成15年6月30日 面積 790m<sup>2</sup> 菜の花園増設に伴う調査。

調査担当：飛田正美・古谷渉

坊屋敷遺跡の調査歴

1次調査 平成9年2月26日 面積 130m<sup>2</sup> 道路建設に伴う調査。

2次調査 平成9年4月1日～平成9年5月30日 面積 2,705m<sup>2</sup> 菜の花園建設に伴う調査。

2次調査の成果は、平成11年に報告書が刊行されている。

今回の調査を3次調査と称する。

4. 本書の編集は、飛田正美が行った。遺物撮影は塚原勇人・青柳すみ江の協力を得た。

発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏のご指導・御協力を賜った。記して謝意を表したい。

千葉市教育委員会文化課・社会福祉法人葉寿会・特別養護老人ホーム菜の花園・坂尾山栄福寺。長谷川清三氏・元好正守氏。

## 凡　　例

1. 本書の遺構図面は、磁北を基本としている。
2. 遺構番号は、2次調査の遺構番号を基にして続き番号を付している。
3. 掲載した遺構図面の縮尺は、竪穴住居跡1/60, 土壙1/40, 古墳1/100, 溝状遺構1/300とした。
4. 遺物実測図の縮尺は、縄文土器・土師器・須恵器1/4, 縄文土器拓影・土製品・石製品1/3, 石器2/3・1/1とした。
5. 土層説明と土器類の色調は、農林水産省監修「新版標準土色帳」による。
6. 図版中に使用したスクリーントーンは、それぞれ図中に示している。

# 目 次

## 例言・凡例

第1章 調査の概要.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境.....	1
第3節 調査の経過と方法.....	1
第2章 調査の成果.....	3
第1節 検出された遺構と遺物.....	3
1. 縄文時代.....	3
2. 古墳時代.....	10
3. 近世.....	13
4. グリッド出土遺物.....	15
第3章 まとめ.....	16

## 挿図図版

第1図 坊屋敷遺跡と周辺遺跡	第9図 7号住居跡・出土遺物
第2図 坊屋敷遺跡の調査位置	第10図 2号古墳
第3図 遺構配置図	第11図 2号古墳出土遺物
第4図 5号住居跡	第12図 7号古墳
第5図 5号住居跡出土遺物	第13図 1号溝
第6図 6号住居跡	第14図 5号溝・6号溝・1号溝出土遺物
第7図 6号住居跡出土遺物	第15図 グリッド出土遺物
第8図 4号土壙・5号土壙・1号埋設土器	第16図 5号住居跡・1号埋設土器

## 写真図版

図版1 遺跡遠景・調査区全景	図版5 1号溝・5号溝・遺構分布状況
図版2 5号住居跡・6号住居跡	・調査風景
図版3 6号住居跡・4号土壙・5号土壙 ・1号埋設土器	図版6 出土遺物
図版4 7号住居跡・2号古墳・7号古墳	図版7 出土遺物

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

坊屋敷遺跡は、社会福祉法人葉寿会による高齢者福祉施設「特別養護老人ホーム菜の花園」建設に伴い、平成9年度に葉寿会理事長小林茂幹の委託を受けた財団法人千葉市文化財調査協会が2,705m<sup>2</sup>の発掘調査を行なった。

今回は、「菜の花園」の増設にともない、隣接する事業地区内の「埋蔵文化財の有無及びその取り扱い」についての照会が市の教育委員会文化課に提出され、前回調査により遺構の存在が明らかであることから、記録保存をはかるために発掘調査を実施することになった。調査は葉寿会の委託を受け、千葉市教育委員会の指導のもとに財団法人千葉市教育振興財團埋蔵文化財調査センターが行ったものである。

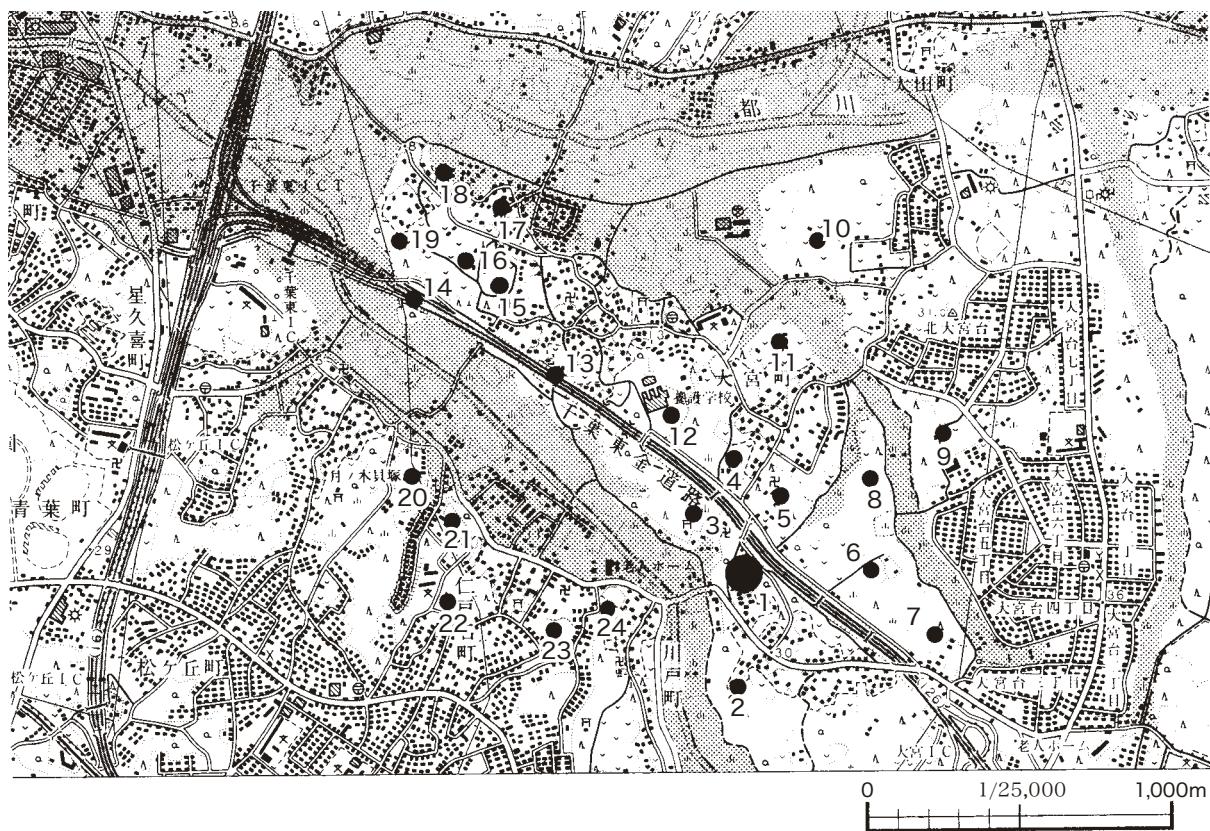
## 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

坊屋敷遺跡は、千葉市内を西流して東京湾に注ぐ都川の南側支流を臨む標高31～33mを測る台地上に位置している。都川は遺跡の北西で本流が2本の支流分が合流する。この支流に挟まれた東西に長く延びる舌状台地上に本遺跡は位置している。台地の北側は緩傾斜を呈しており、北東側の谷は鳥ヶ沢を谷奥として瀧谷あたりで都川北支流に至る。南側は、川戸町・星久喜町を臨む通称「仁戸名支谷」に面した急峻な傾斜地である。坊屋敷遺跡は仁戸名支谷に面し谷下に泉福寺、北に東金有料道路を隔てて枝垂れ桜で有名な古刹、天台宗坂尾山栄福寺が所在する。栄福寺境内には、版築された土塁と空堀様の溝が残っており、中世の館跡と考えられている。また本遺跡の西側、泉福寺谷と近江谷に挟まれた日吉神社が祀られている舌状台地には、中世の城山城跡が占地している。城山城跡は、昭和63年度千葉県教育委員会の調査により、東西300m・南北200mの範囲に、本城8郭の山城式であることが解明され、腰曲輪・空堀などの遺構が検出されている。城山城跡のさらに西、台地上先端部には旧石器時代・縄文時代～古墳時代の集落跡、中世城郭が確認された城の腰遺跡が存在している。

## 第3節 調査の経過と方法

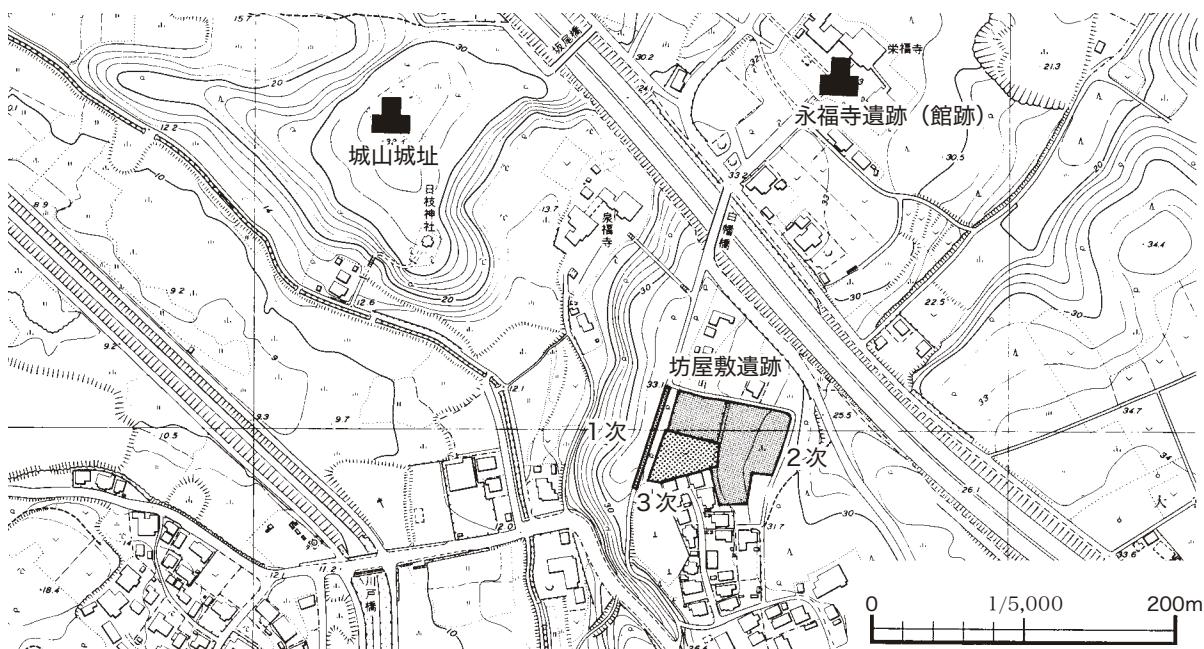
1. 調査区の設定は、磁北を基準に前回の調査に合わせて、東西・南北に10m刻みの方眼を被せ大グリッドとし、さらに5m×5mに小分割した小グリッドを設定。グリッドの名称は北から南へ1・2・3と数字を振り、西から東にA・B・Cの大文字のアルファベットを当てた。各グリッドの北西隅が大グリッドの基点である。小グリッドも北西隅を基点とし、4分割された北西区画をa・北東区画をb・南西区画をc・南東区画をdの小文字のアルファベットを付した。遺構の実測および遺物の取り上げについては、小グリッドを基準として実施した。

2. 遺跡の基本層序は、第I層：表土層、第II層：黒褐色土層、第III層：極暗褐色土層、第IV層：ソフトローム層、第V層：ハードローム層である。

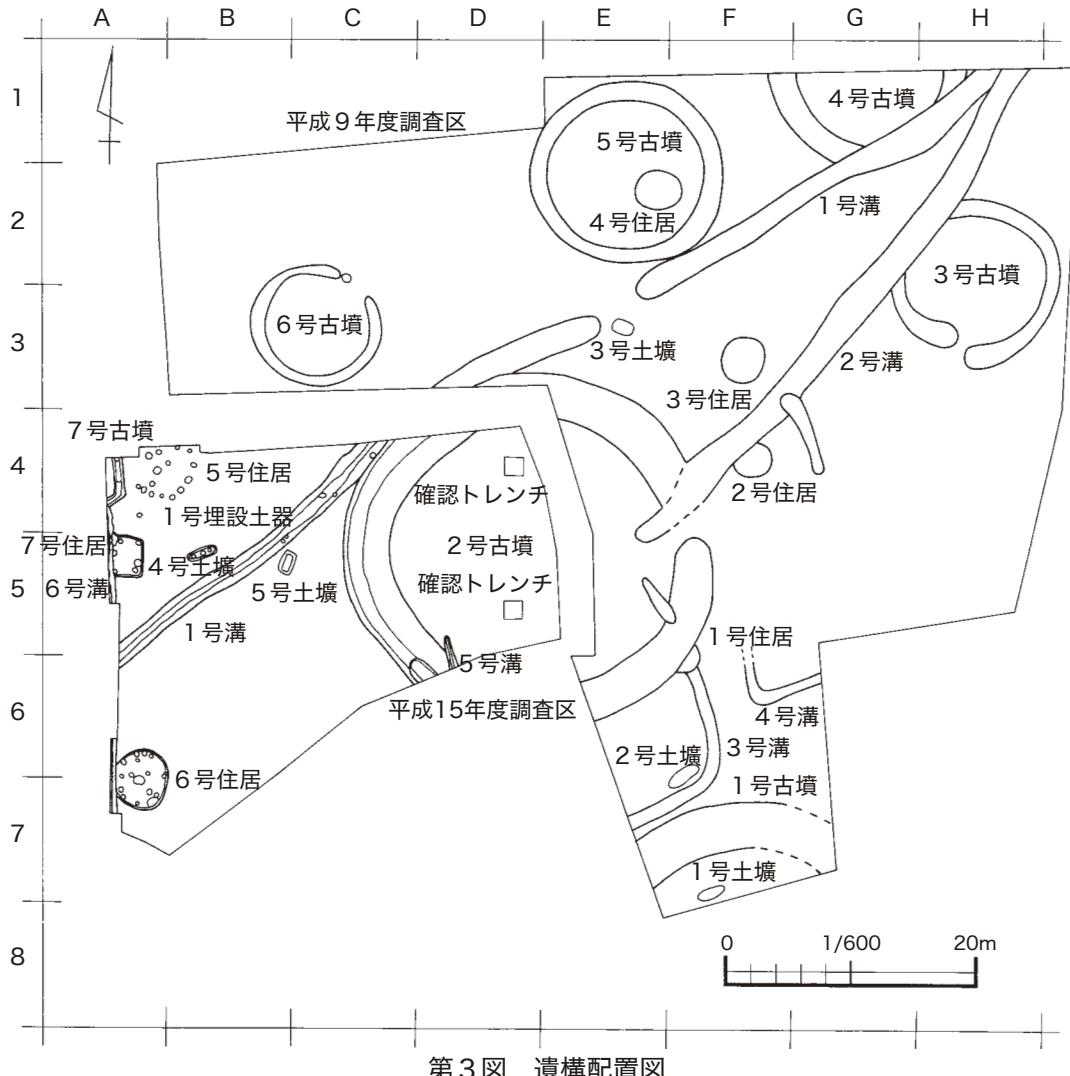


1 坊屋敷遺跡 2 名木古墳群 3 城山城跡 4 宿遺跡 5 永福寺遺跡 6 東五郎遺跡 7 木戸坊遺跡  
 8 東五郎北遺跡 9 三ノ作遺跡 10 瀧の谷遺跡 11 押元遺跡 12 稲荷台遺跡 13 西屋敷遺跡  
 14 城の腰遺跡 15 東屋敷遺跡 16 宮ノ前遺跡 17 下和田遺跡 18 下和田西遺跡 19 上和田遺跡  
 20 月ノ木貝塚 21 へたの台貝塚 22 作山古墳群 23 郷西遺跡 24 郷遺跡

第1図 坊屋敷遺跡と周辺遺跡



第2図 坊屋敷遺跡の調査位置



第3図 遺構配置図

## 第2章 調査の成果

### 第1節 検出された遺構と遺物

平成9年度の調査では、縄文時代土壙1基・中期（阿玉台式期～加曾利E式期）の竪穴住居跡4軒、古墳5基、近世と思われる溝状遺構が4条検出されている。

今回の調査では、縄文時代中期加曾利E式期の竪穴住居跡2軒・埋甕1基。土壙が2基。古墳時代前期五領式期の竪穴住居跡1軒。前回、東側が調査された2号古墳の西側部分と新たに検出された方墳の一部。1号溝状遺構の続きと2条の近世溝状遺構が検出された。

#### 1. 縄文時代

##### 5号住居跡（第4・5図・図版2・6）

調査区の北西、方墳の東側に位置する。北の一部は「菜の花園」との境にあるフェンスの下にあり、完掘できなかった。壁は認められず、柱穴が13本ほぼ楕円形に巡り、柱穴間による住居跡の推定規模は長径約4,88m、短径約4,24m。炉は床面中央からやや北西の位置にあり、長径60cm、短径52cm、

深さ5cmを測る。炉内北東部より土器片が検出されているが、これら土器片は炉を囲んだ直立の状態ではなく、掘込みも検出されなかつたことから、土器片囲い炉かの判断はできなかつた。炉の南西脇には深鉢を埋設した遺構が検出され、掘込みは平面形がゆがんだ橢円形を呈し、長径50cm、短径40cm、深さ28cmを測る。

遺物は、炉の東脇より出土した大型の石棒のほか、多量の加曽利E式の土器片などが出でている。1は埋設土器である。口縁上部と底部を欠いている。口縁に太い沈線をめぐらし下に縄文を羽状に施している。2・3は縄文を地文とする炉出土の破片である。4・5は口縁部片。6～12は磨消帶が垂下するもの。13は条線が施された胴部片である。14は土器片を利用した土製円板で一部欠損、重さ6,9g。15はチャート製の石鏃片で重さ0,8g。16は敲石、砂岩製で重さ92,08g。17は本体上部を欠く安山岩製の大型石棒である。断面はやや扁平で火を受けており、表面にはひびが生じている。重さは11,4kg。

#### 6号住居跡（第6・7図・図版2・3・6）

調査区の南西に位置する。住居跡の西側は6号溝によって失われている。遺存している規模は長径4,4m、短径4,3m、壁高約20cmを測る。床の中央部に橢円形の炉があり、長径94cm、短径64cm、深さ約20cm。炉床はよく焼けていた。柱穴は16本検出されている。炉の東側の床面直上に白色粘土が堆積していた。またそのやや東、壁ぎわで扁平な粘土塊が検出された。覆土下層よりアサリ1点、ハマグリ2点、炭化したクルミ片が出土している。

遺物は、1・2は深鉢の口縁部片で橢円形区画文を施している。6・7は胴部片で縄文の地文に磨消懸垂文がみられる。3は把手部片。4は口縁片で半裁竹管の連続刺突がみられる。5はくびれ部に円形刺突列が施されている。8は底部片で沈線が一条垂下する。9・10は土器片垂でそれぞれの重さは16,2g・42,1g。11は土製耳飾りの半損品。ほぼ円形で断面は扁平ながら中央はややくびれた鼓形を呈し、外側側面の3ヶ所にヘラ状工具による刻みが3ヶ所認められる。重さは6,8g。12はチャート製石鏃片で重さ1,1g。13は黒曜石剥片で重さ0,3g。14は安山岩製石皿破片で重さ390,9g。15は東壁際で出土した粘土塊である。扁平で特に加工等は見られない。

#### 4号土壙（第8図・図版3）

7号住居跡の東、1号溝との中間に位置している。遺構は掘込みの浅い細長い橢円形を呈している。底部に3本の小穴を穿つ。遺物は出土しなかつた。

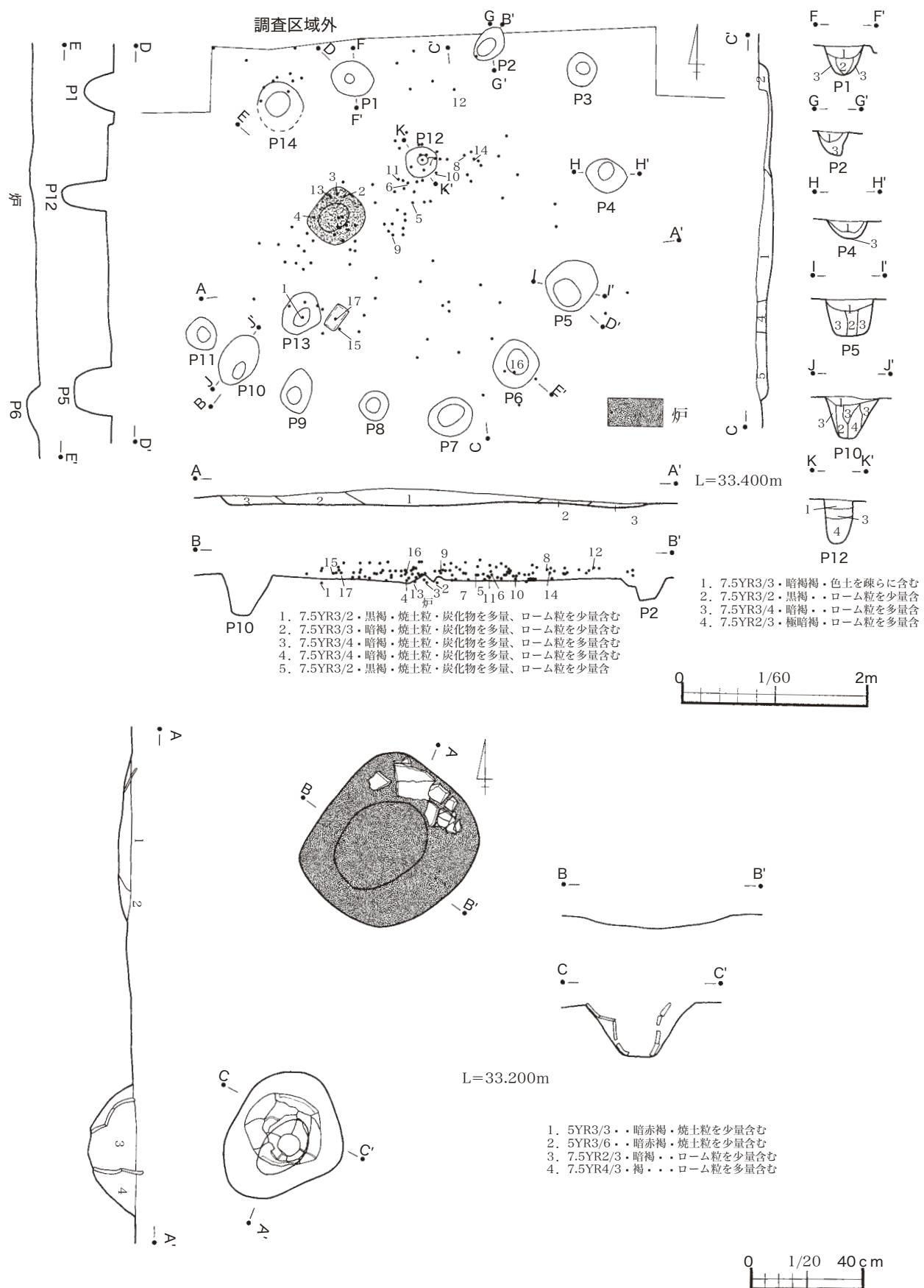
#### 5号土壙（第8図・図版3）

4号土壙の東、1号溝と2号古墳との間に位置している。平面は長方形、規模は長径1,85m、短径1,13m、深さ1,21m。遺物は出土しなかつた。

#### 1号埋設土器（第8図・図版3・6）

調査区の西北、5号住居跡と7号住居跡のほぼ中間に位置する。掘り方の平面形はやや橢円形を呈する。規模は長径38cm、短径33cm、深さ22cm。

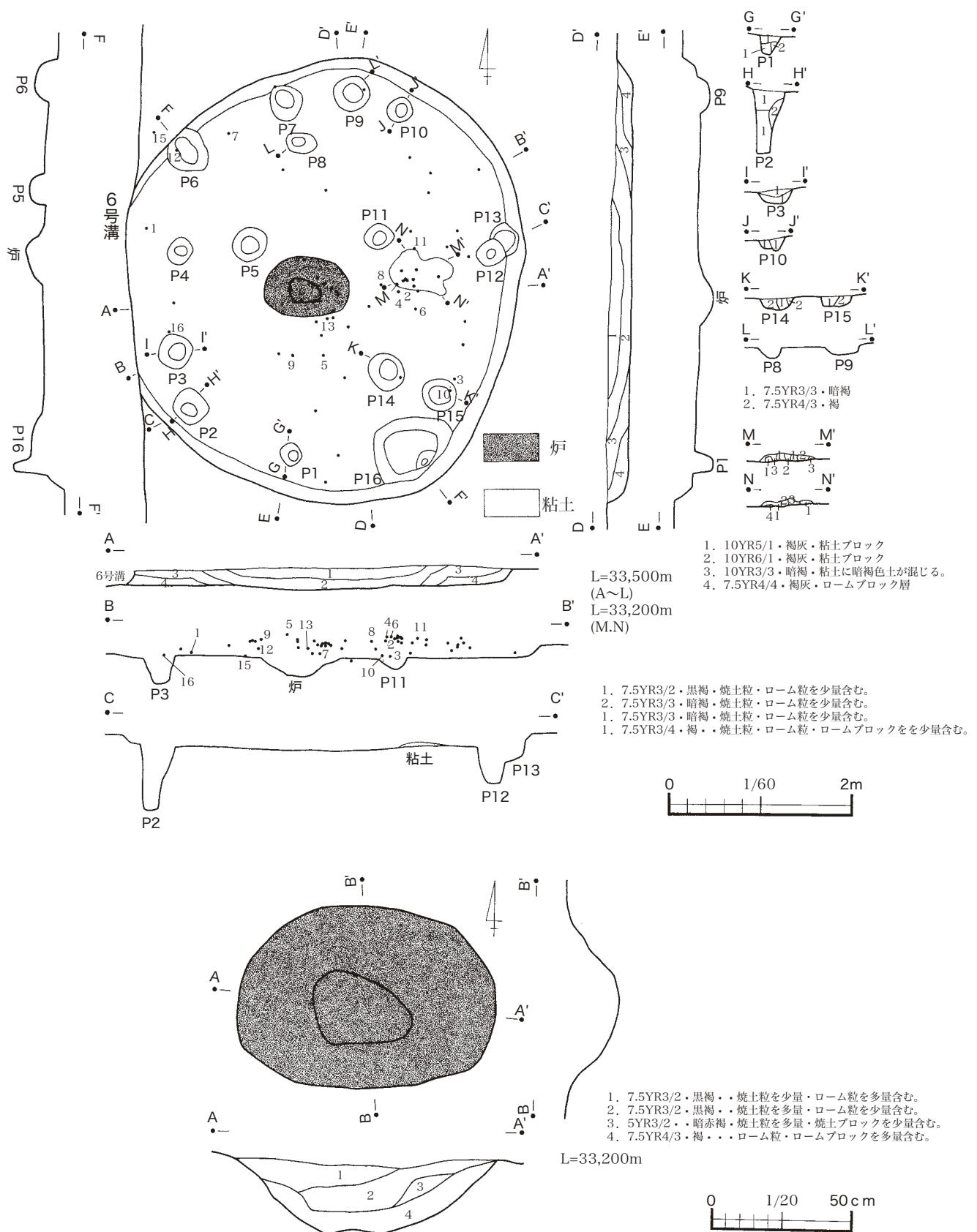
埋設されていた土器は、口縁部を欠く深鉢土器で、胴部に磨消縄文を施している。



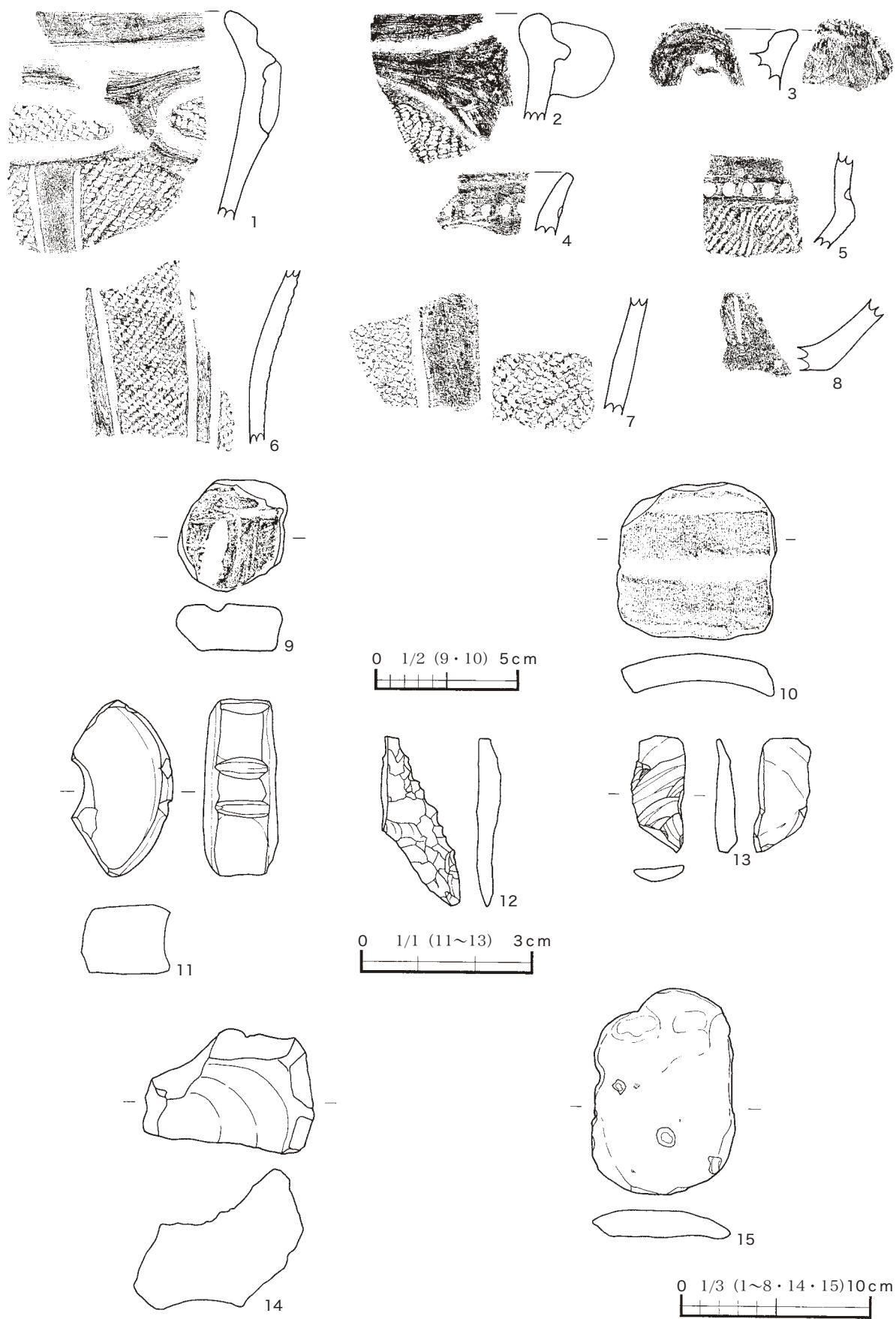
第4図 5号住居跡



第5図 5号住跡出土遺物

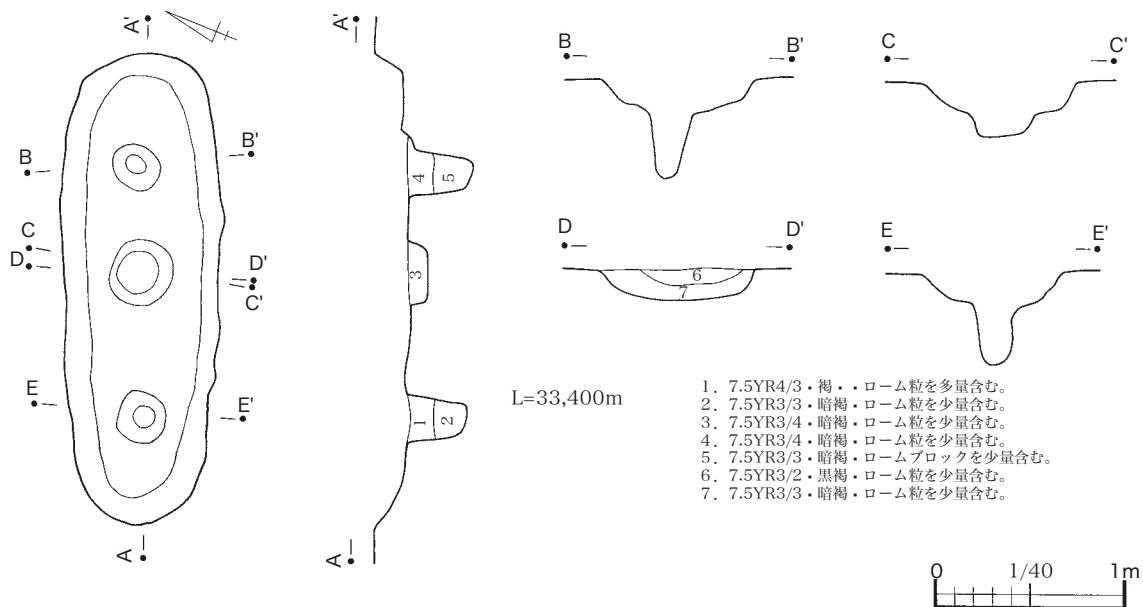


第6図 6号住居跡

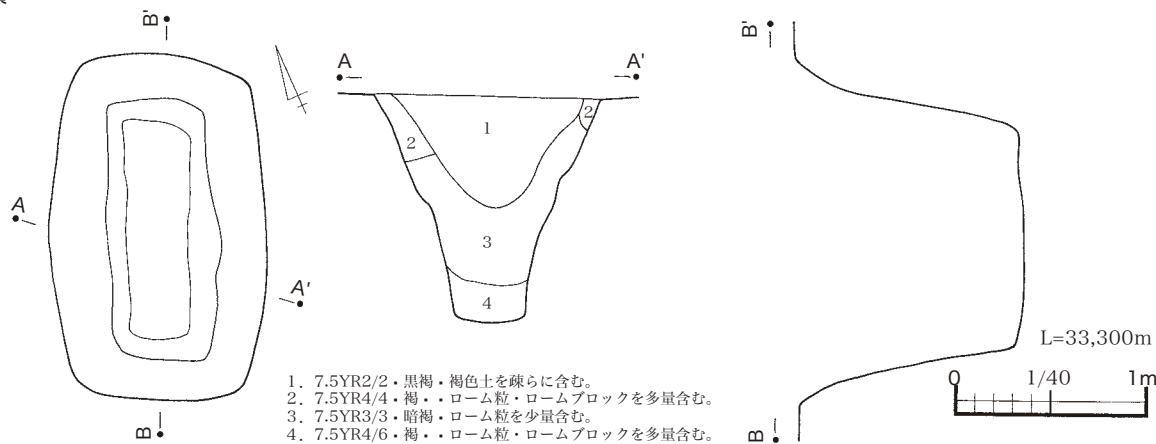


第7図 6号住居跡出土遺物

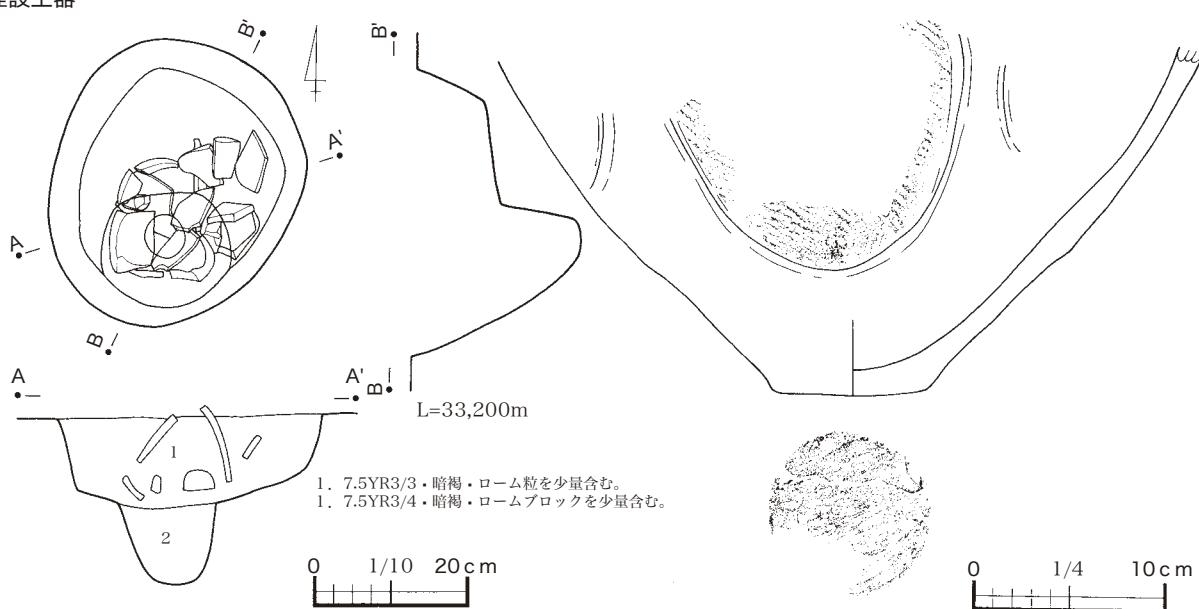
4号土壤



5号土壤



1号埋設土器



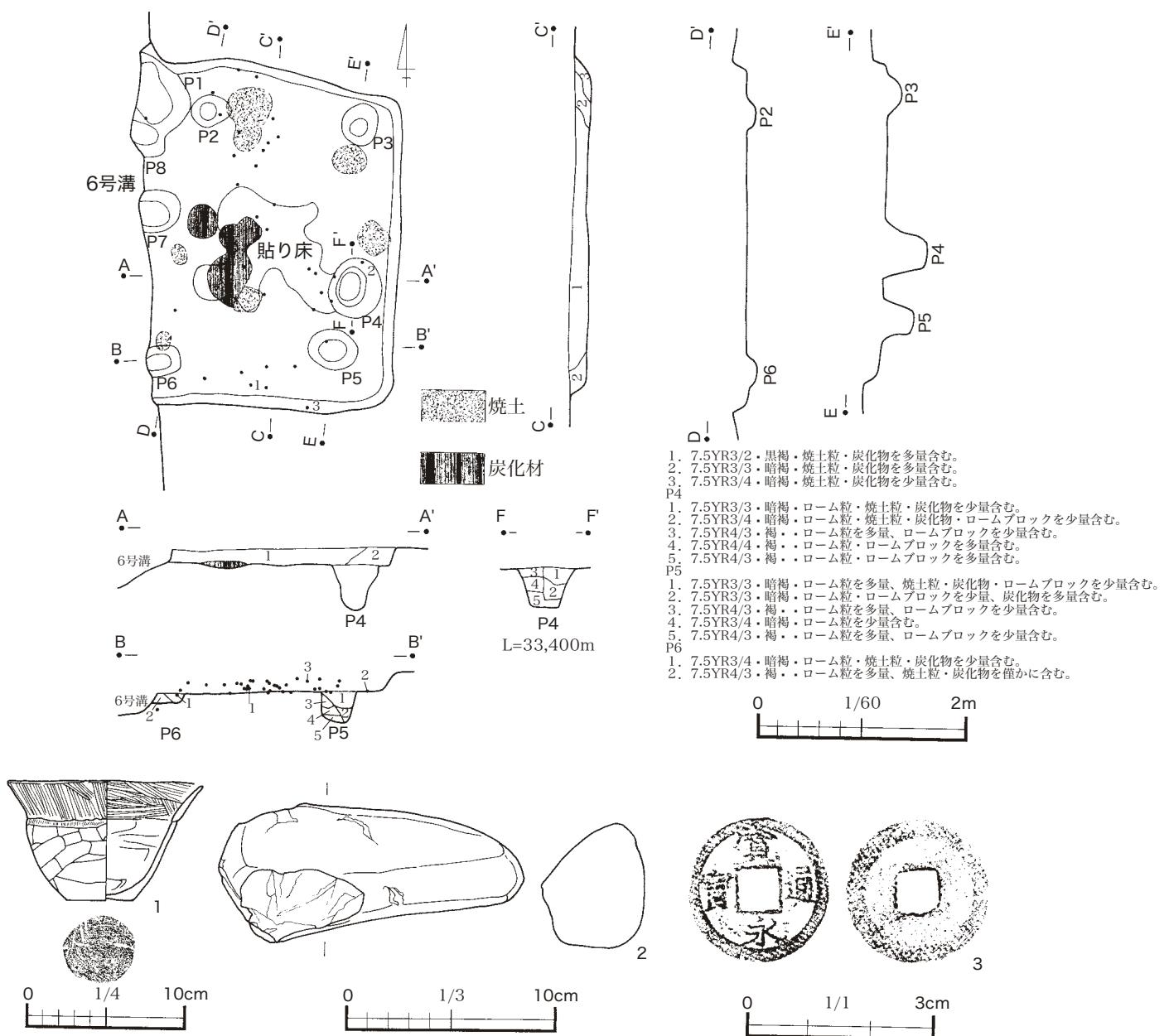
第8図 4号土壤・5号土壤・1号埋設土器

## 2. 古墳時代

### 7号住居跡 (第9図・図版4・7)

調査区の西北に位置している。遺構の西側で6号溝と重複している。覆土および床面直上で焼土・炭化物が検出されているので火災住居と考えられる。

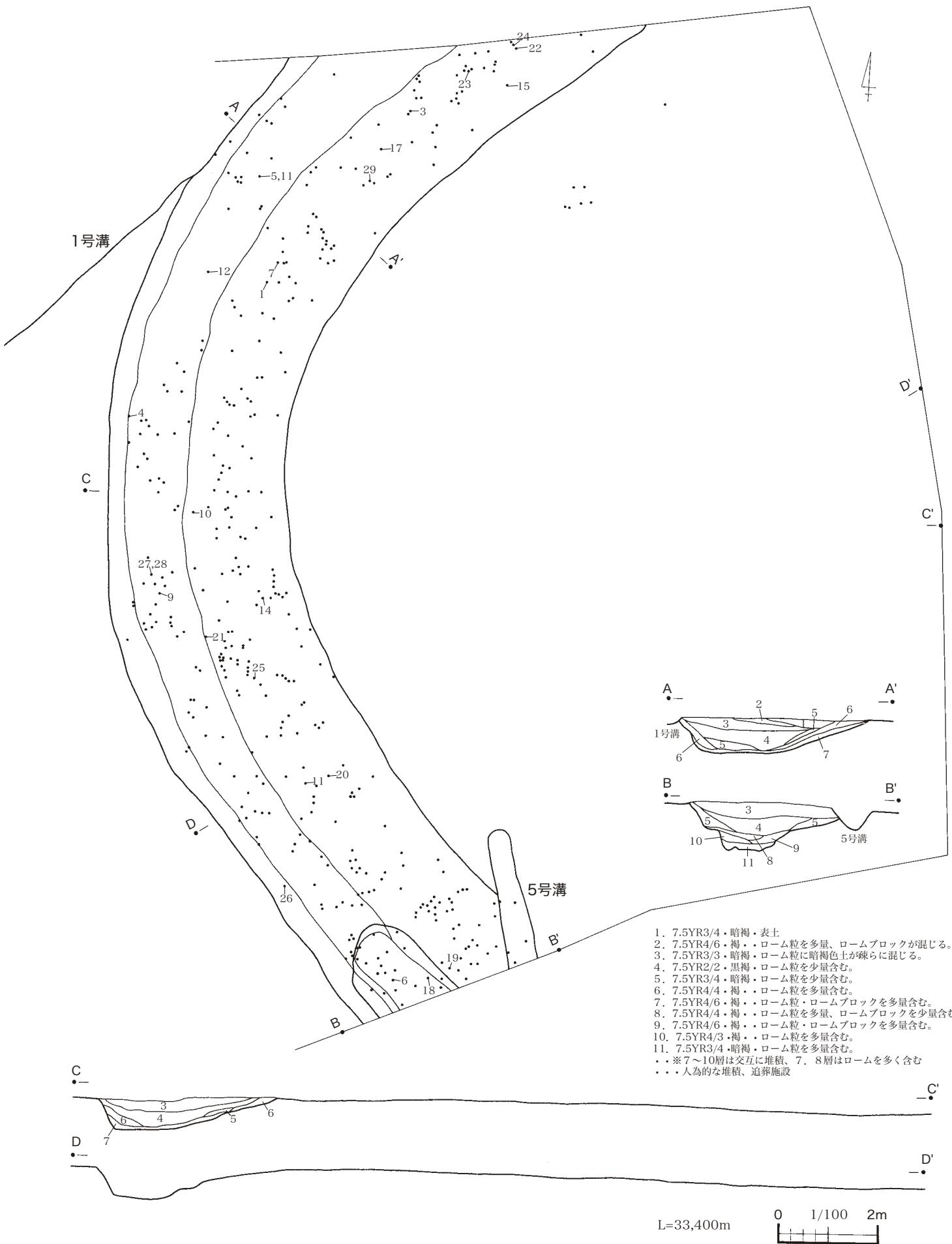
遺物はわずかで、1は底部平底の坩型土器。2は硬質砂岩製の敲石で重さ595,8g, 打面欠損部は火を受け赤化している。3は覆土上層出土の寛永通宝、裏無文。



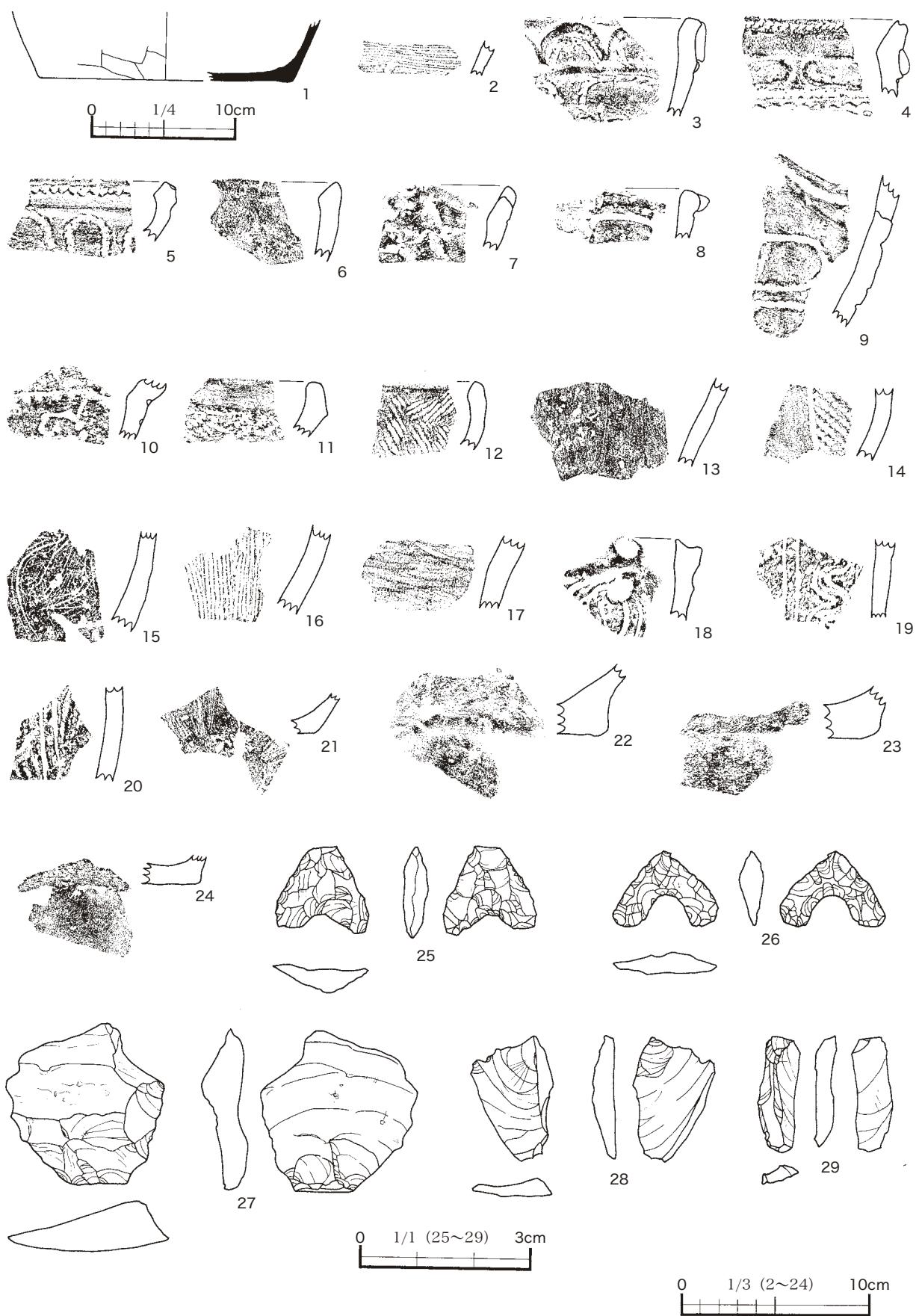
第9図 7号住居跡・出土遺物

### 2号古墳 (第10・11図・図版4・7)

調査区の東に位置し、平成9年度調査によって東側半分が調査報告されている。北部で1号溝と重



第10図 2号古墳



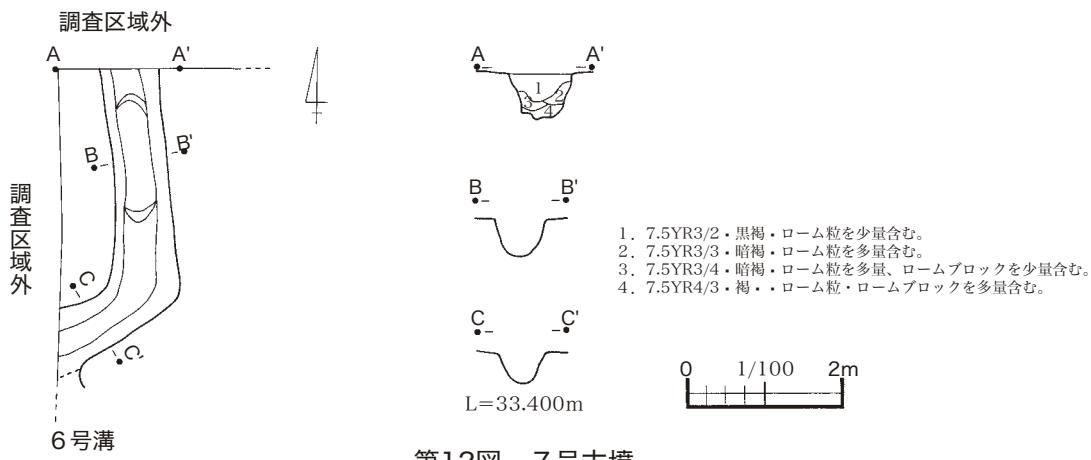
第11図 2号古墳出土遺物

複している。墳丘は認められなかった。今回の調査では、周溝のもっとも南側で追葬と思われる掘込みの浅い土壙が検出された。追葬に伴う遺物は出土していない。

遺物は縄文時代中期の土器片がほとんどであった。1は須恵器の甕底部である。2の土器片は縄文時代前期の浮島式。3～10は阿玉台式。11～17は加曾利E式。18～20は堀ノ内式。21～24は底部片。25・26は黒曜石製石鏃で重さ0.8g・0.5g。27・28は黒曜石製剥片で重さ4.6g・0.9g。29は黒曜石製細石刃、重さ0.4g。

#### 7号古墳（第12図・図版4）

調査区の最北西部に位置し、古墳の大部分は調査区域外に存在している。墳丘は確認できなかった。周溝内に追葬と思われる掘込みの浅い土壙が検出されたが、遺物は出土していない。



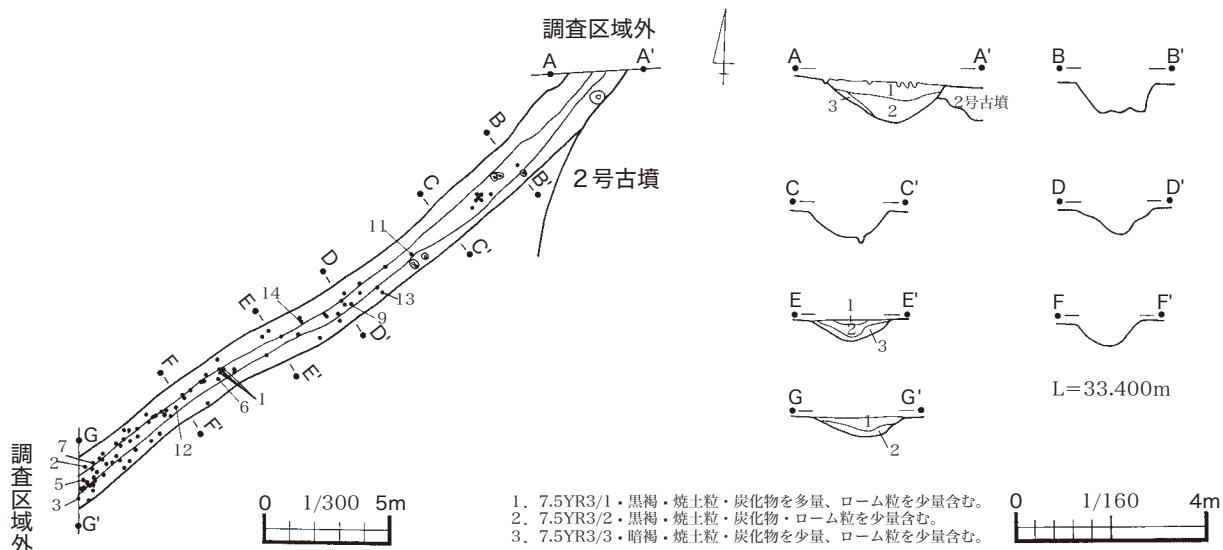
第12図 7号古墳

### 3. 近世

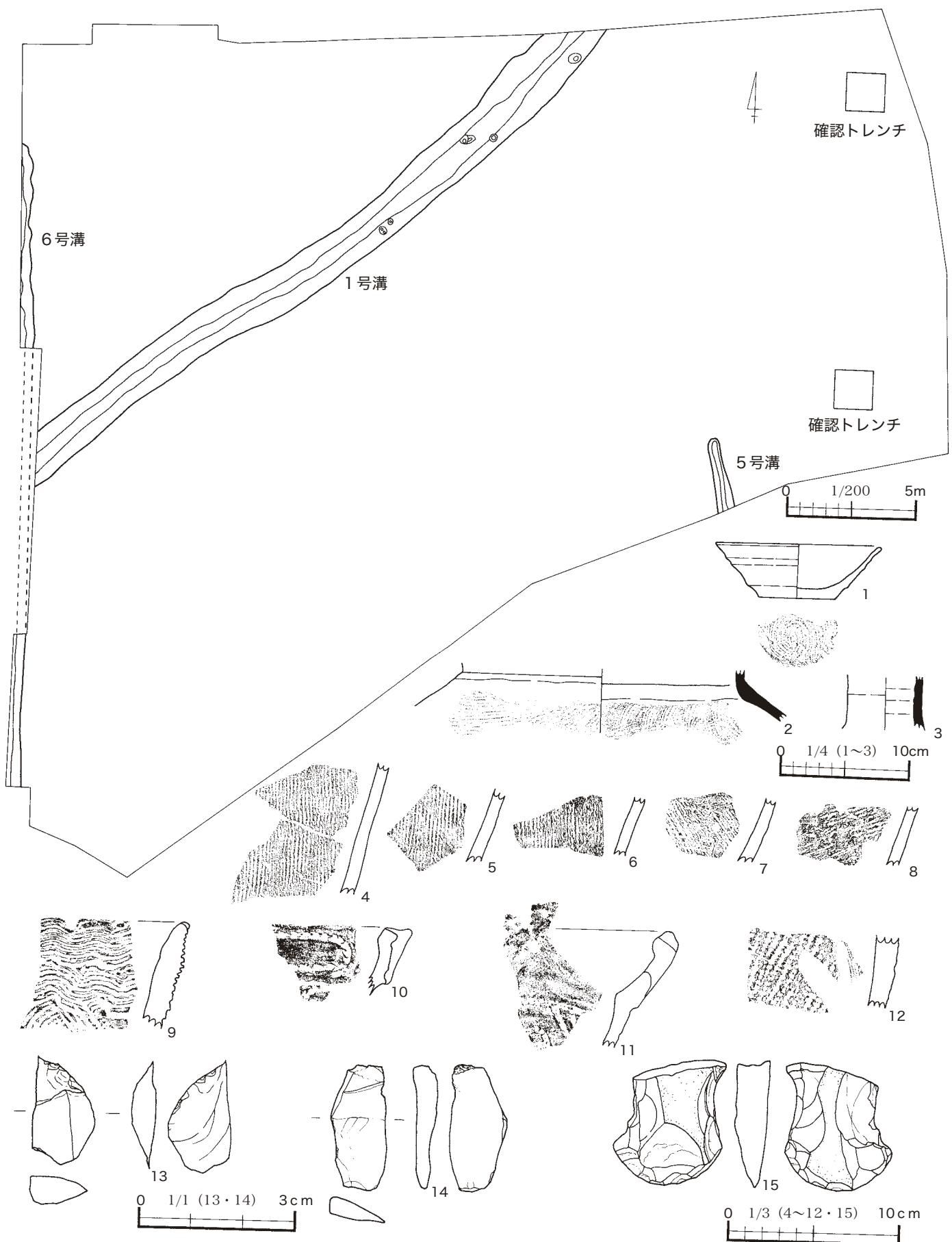
#### 1号溝（第13・14図・図版5・7）

調査区の北東から西南に至る。北東側で2号古墳と重複している。

1は土師器の壺。2は須恵器の大型甕、器面内外にタタキ目が見られる。3は須恵器の長頸瓶、器面内外に釉が付着。4～8の土器片は縄文早期撚糸文系。9は前期後半頃。10・11は阿玉台式。12



第13図 1号溝



第14図 5号溝・6号溝・1号溝出土遺物

は加曾利E式。13は頁岩製錐で重さ1,0g。14は瑪瑙製剥片で重さ0,9g。15は粘板岩製打製石斧で重さ88,1g。

#### 5号溝（第14図・図版5）

2号古墳周溝南側で検出。北側で途切れており、南の調査区域外に遺構が伸びているものと考えられる。

遺物は出土していない。

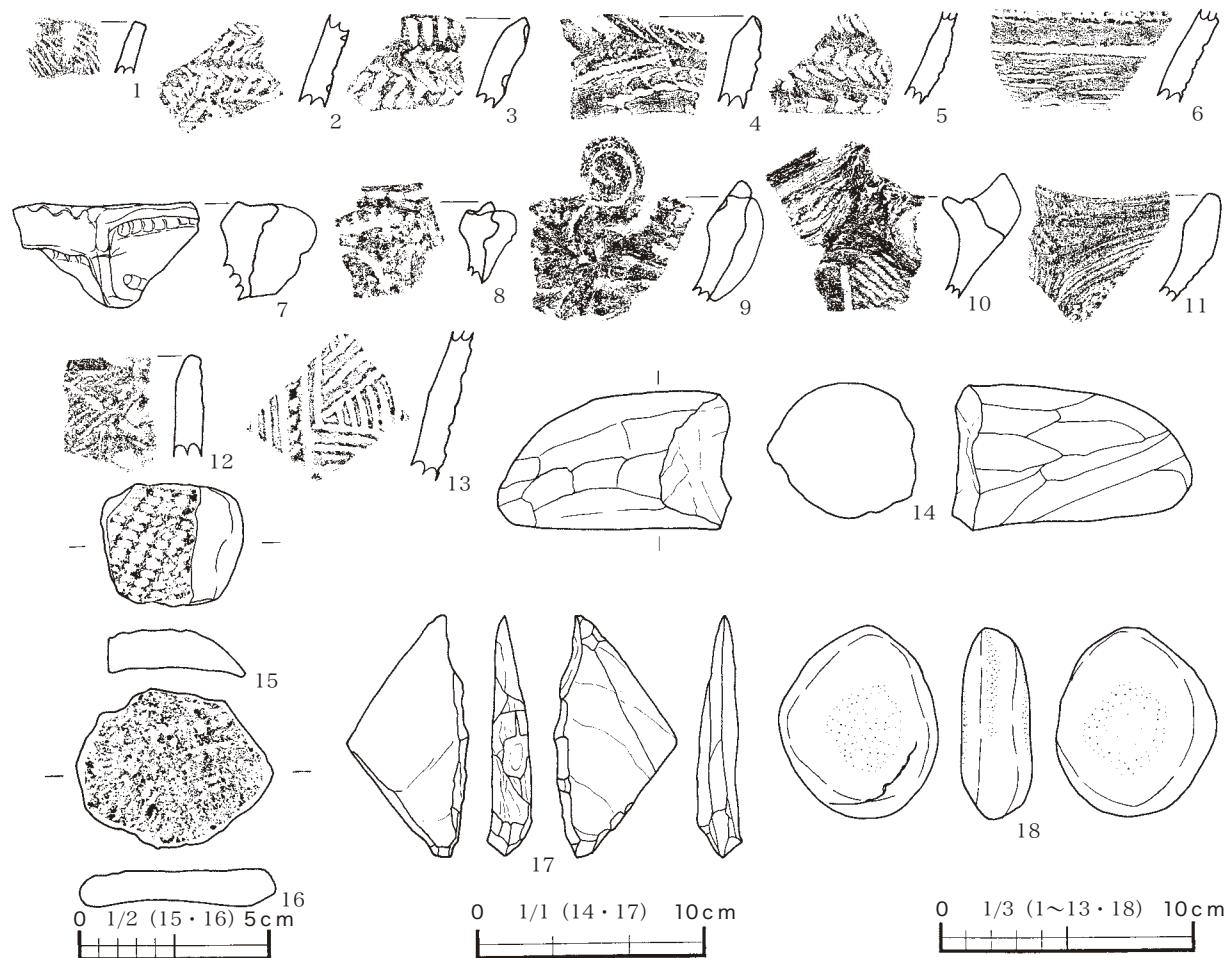
#### 6号溝（第14図・図版5）

調査区の西際で検出された。遺構のほとんどが西側調査区域外に存在している。

遺物は出土していない。

#### 4. グリッド出土遺物（第15図・図版7）

1の土器片は縄文時代早期撚糸文系。2～5は前期浮島式。6～9は阿玉台式。10・11は加曾利E式。12・13は堀之内式。14は土製品、土偶の腕部か。15は土製円板で重さ16,1g。16は土器片錐で重さ22,0g。17は硬砂岩製ナイフ型石器で重さ2,3g。18は石英斑岩製敲石で重さ190,7g。火を受けて全体が赤化している。



第15図 グリッド出土遺物

### 3章　まとめ

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代中期（加曽利E式期）の竪穴住居跡2軒、土壙2基。古墳時代前期（五領式期）竪穴住居跡1軒、古墳2基の周溝。近世の溝状遺構3条である。旧石器時代の遺物が僅ながら出土しているので、確認グリッドを2ヶ所に設定し、調査を実施したが遺構等は検出できなかった。

今回、1号埋設土器として報告した遺構については5号住居跡に隣接しているため、住居跡との関係について注意して調査を行ったが、関係を示す柱穴・周溝等の遺構が検出できず、単独遺構として報告した。しかしながら、5号住居跡の炉跡および埋設土器を結ぶ軸線を南西におろすと1号埋設土器上に至る（第16図参照）。相互の埋設土器形式が同一期であることから5号住居跡が「柄鏡住居跡」である可能性を示唆しておきたい。

なお、特記すべき事項としては、6号住居床面直上に白色粘土堆積が検出されたことが挙げられる。粘土堆積の他に板状の粘土塊1点も床上より出土している（第7図参照）。土器製作等にかかわるものとすれば貴重な例といえよう。



1次調査の詳細は不明ながら、これまで3次にわたる調査成果を合わせると、縄文時代中期竪穴住居跡6軒（内訳：阿玉台式期2軒・加曽利E式期4軒）。縄文時代土壙4基。古墳時代住居跡2軒、古墳7基、近世溝状遺構7条が検出されている。古墳の構築時期については、2次調査時の出土遺物から古墳時代中期から後期にかけて営まれたと考られる。以上のことから、坊屋敷遺跡では、旧石器時代・縄文時代・古墳時代・近世に至る人々の歴史があきらかとなった。本書が当該地域の歴史研究の資料として活用されれば甚幸である。

第16図　5号住居跡・1号埋設土器

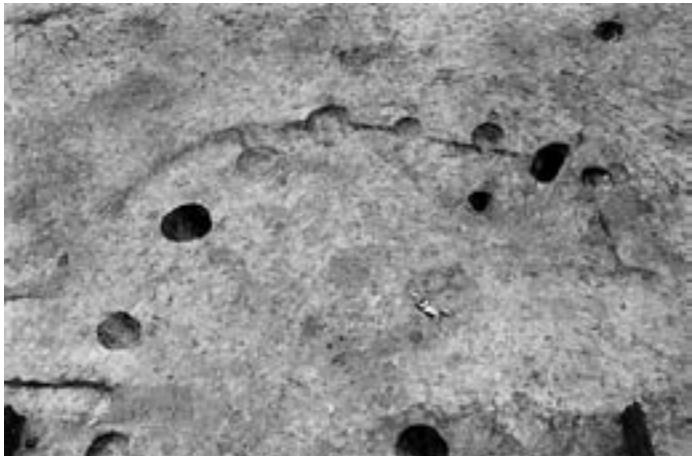


遺跡遠景



調査区全景

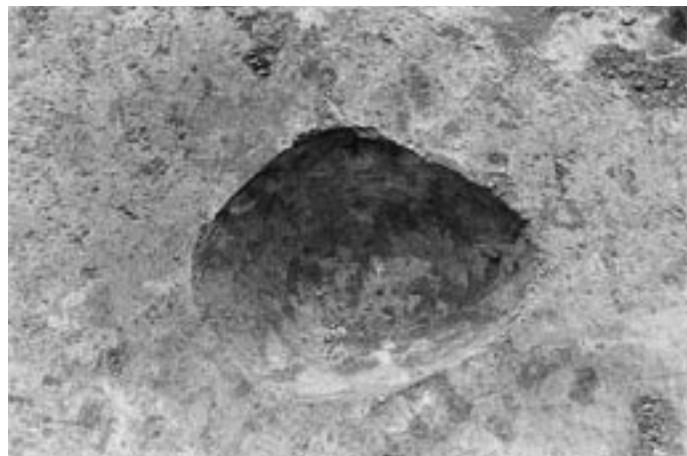
## 図版2



5号住居跡



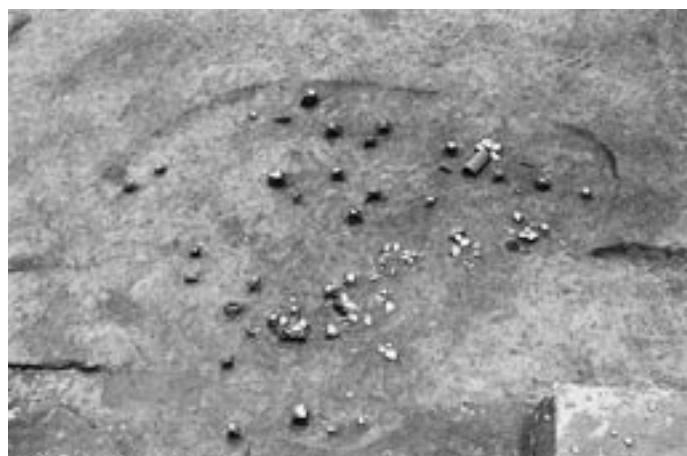
5号住居跡 埋設土器



5号住居跡 埋設土器掘り方



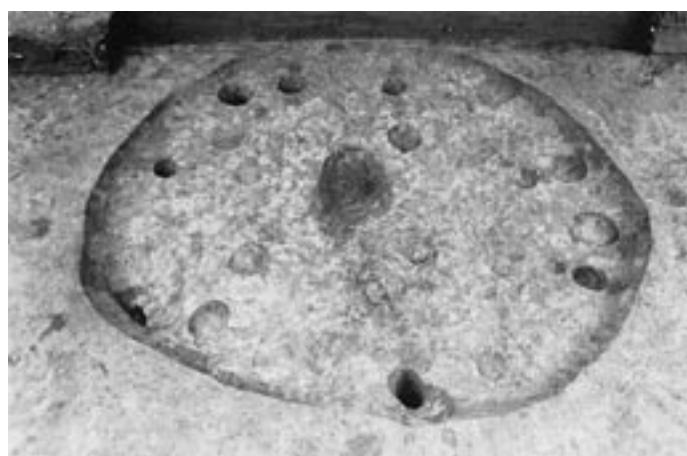
5号住居跡 炉



5号住居跡 遺物出土状況



5号住居跡 石棒出土状況



6号住居跡



6号住居跡 遺物出土状況



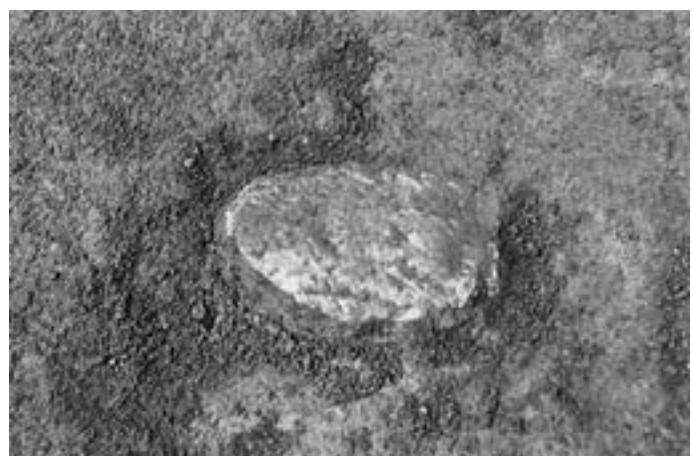
6号住居跡 炉



6号住居跡 耳飾出土状況



6号住居跡 粘土出土状況



6号住居跡 粘土塊出土状況



4号土壤



5号土壤



1号埋設土器



1号埋設土器掘り方

#### 図版4



7号住居跡



7号住居跡 遺物出土状況



7号住居跡 遺物出土状況



2号古墳 調査風景



2号古墳



2号古墳周溝内検出主体部



2号古墳遺物出土状況



7号古墳



1号溝



1号溝



1号溝 遺物出土状況



1号溝 調査風景



5号溝



遺構分布状況



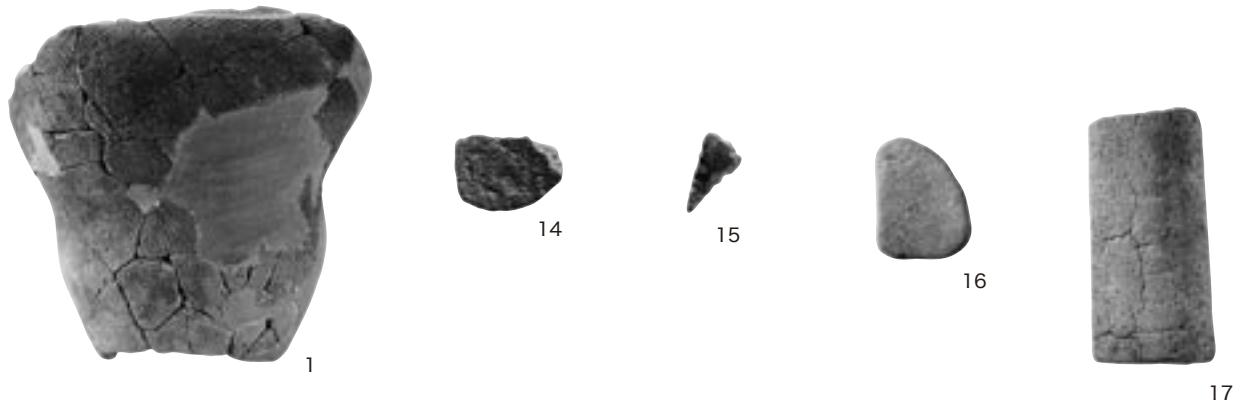
調査風景



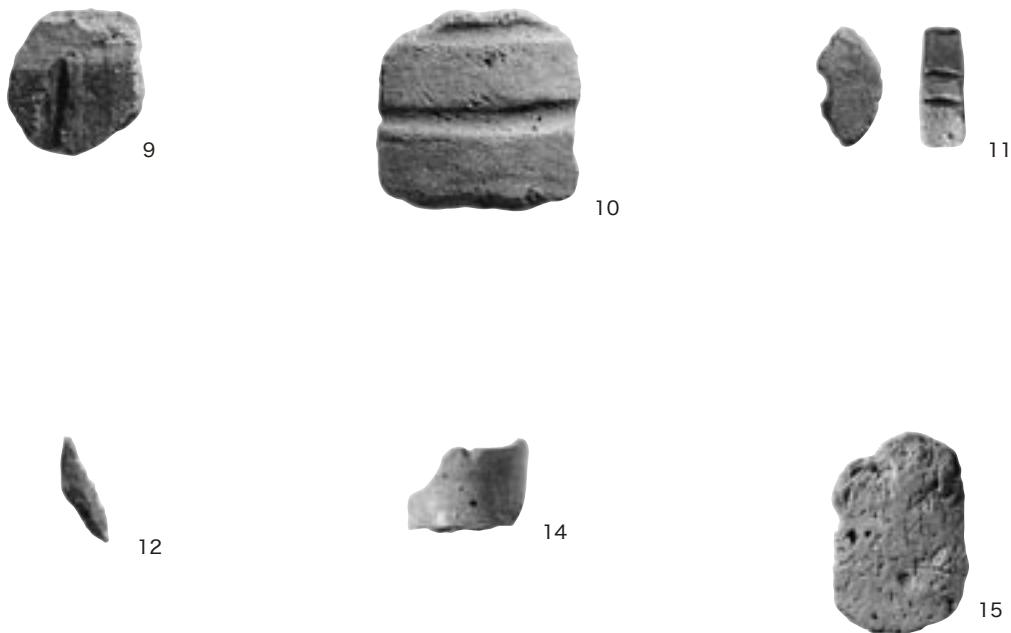
調査風景

## 図版6

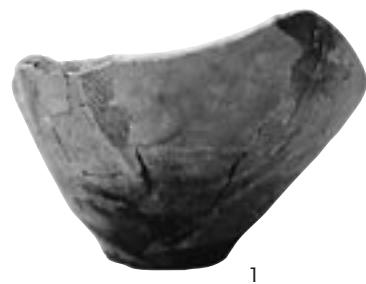
5号住



6号住



1号埋設土器



7号住



1



2



3

2号古墳



1



25



26



27



28

1号溝



1



2



15

グリッド



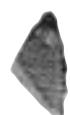
14



15



16



17

## 報告書抄録

ふりがな	ちばしほうやしきいせきに						
書名	千葉市坊屋敷遺跡II						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ号	第2冊目						
編著者名	飛田正美						
編集機関	財団法人千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センター						
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL 043-266-5433						
発行年月日	2004年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	本調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
ぼうやしきいせき 坊屋敷遺跡	わかばくおおみやちょう 若葉区大宮町1,625	12104	若葉区 198	35° 35' 21"	140° 10' 23"	20030602 ~ 20030630	790m <sup>2</sup> 特別養護老人 ホーム増設
				旧座標			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
坊屋敷遺跡	集落跡 古墳群	縄文時代 古墳時代 近世	縄文時代住居跡 土 壤 古墳時代住居跡 古 墳 近世溝状遺構	2軒 2基 1軒 2基 3条	縄文時代 土器・石器 古墳～平安時代 土師器・須恵器	縄文時代住居跡床 面より白色粘土堆 積出土	

## 千葉市坊屋敷遺跡II

平成16年3月31日 発行

編集・発行 社会福祉法人 葉寿会

〒264-0016 千葉市若葉区大宮町3番地

財団法人 千葉市教育振興財団

埋蔵文化財調査センター

〒266-0814 千葉市中央区南生実町1210

TEL 043(266)5433

印 刷 株式会社 み つ わ

〒261-0002 千葉市美浜区新港213-5